

学会認定・自己血輸血看護師制度

第21回認定試験・受験申請の案内と重要な注意

2018年7月24日

学会認定・自己血輸血医師看護師制度
協議会会長 脇本信博

1頁	1. 学会認定・自己血輸血看護師制度の趣旨と目的
2頁	2. 自己血輸血担当医師
2頁	3. 第21回認定試験の案内
3頁	4. 認定試験受験資格
3～4頁	5. 受験申請に際してのメールに関する重要事項
4～5頁	6. 認定制度事務局・振込口座：受験費用の支払い
6～8頁	7. 認定試験の申請手順
8～10頁	8. 申請書類記載上の注意
10頁	9. 資格審査
10頁	10. 合同研修
11頁	11. 筆記試験
11頁	12. 認定証の授与
11頁	13. カリキュラム
12～14頁	14. 指定参考書

1. 学会認定・自己血輸血看護師制度の趣旨と目的

わが国では輸血部のない施設が多いため、輸血や自己血輸血について必ずしも十分な教育を受けているとはいえない看護師あるいは研修医が自己血採血を行うことが多いと考えられています。同種血輸血の安全性が劇的に向上してきた今、自己血輸血について教育を受けた**医師と看護師が共同**で採血時の細菌汚染や血管迷走神経反応などの危険性を回避し、適切な採血を行うことが重要です。保管に際しても**医師と看護師と臨床検査技師が共同**で実施することが必要です。

2008年10月に日本自己血輸血学会と日本輸血・細胞治療学会は日本赤十字社の協力を得て、共同で学会認定・自己血輸血看護師制度協議会を設立しました。そして、2009年3月に第1回認定試験を開始しました。

- 学会認定・自己血輸血看護師制度の目的は適正で安全な自己血輸血を推進する看護師の育成ですが、認定取得後には、自己血輸血のみならず臨床（ベッドサイド）の輸血においても各施設において指導的な役割を果たすことが望まれます。

2. 自己血輸血担当医師

学会認定・自己血輸血看護師制度では看護師だけに責務をおわせるのではなく、自己血輸血担当医師の存在を必須としています。条件を満たした担当医師がいない場合には、看護師は受験申請できないのでご注意ください。

自己血輸血看護師認定申請のための自己血輸血担当医師の必要条件：

以下の4条件をすべて満たすことが必要

- 日本自己血輸血学会または日本輸血・細胞治療学会の会員であること。
- 自己血輸血の適応を決定すること。
- 採血日の患者の全身状態チェックと自己血採血の可否を決定すること（自己血採血の可否の決定は自己血輸血担当医師が指導する医師が行ってもよい）。
- 自己血輸血に関する事項（採血方法、エリスロポエチンの適応、合併症対策、保管管理など）を管理し、看護師を教育・指導すること。

備考：2014年（平成26年）4月以降に認定を取得した学会認定・自己血輸血責任医師は上記の条件を満たしているものとみなします。

3. 第21回認定試験の案内

- 申請期間：2018年8月3日（金）午前9時～2018年9月14日（金）24時（午後12時）
- 申請方法：web申請および申請書類送付
 - 1) 受験申請 Web サイト <<http://jikoketsu-nintei.jsat.jp/Apply/Nintei.aspx>>
受験申請 Web サイトは2018年8月3日(水) 午前9時 開設
 - 2) 申請書類送付：2018年9月19日（水）必着
事務局移転中のため、送付先は8月中旬以降に web 申請合格者にメールでお知らせします。
書類は日本郵便のレターパックライト（360円）で送付ください。
レターパックプラス（510円）、書留、普通郵便は不可といたします。
- 試験会場：
 - ・日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター 5F 研修室（東京都江東区辰巳 2-1-67）
 - ・東京都赤十字血液センター 4F 研修室（東京都新宿区若松町 12-2）
- 認定試験のスケジュールと会場
 - ・2018年10月26日(金) 午前 8時45分～18時：合同研修・施設研修・面接
(関東甲信越ブロック血液センター)
 - ・2018年10月27日(土) 午前 8時45分～17時：合同研修（上記 ブロック血液センター）
 - ・2018年10月28日(日) 午前 8時20分～12時：筆記試験（東京都赤十字血液センター）

4. 認定試験受験資格

• web 申請前の申請費用や学会入会について

- 1) 未入会者は日本自己血輸血学会又は日本輸血・細胞治療学会の入会を済ませておくこと
日本自己血輸血学会入会案内は下記 URL を参照ください。
<http://www.jsat.jp/jsat_web/nyukaiannai_syousai.html>
- 2) 受験申請費用 1 万円の振込み (臨床輸血看護師やアフェレーシスナースの認定取得者は 5,000 円で可)
- 3) web 申請後の学会入会や受験費用振込みは認めません!!!

• 受験者個人の受験資格 (必須条件)

- 1) 臨床経験が 2 年以上の看護師であること (臨床経験には准看護師の経験を含んでもよい)
准看護師の受験は認めません。
- 2) 自己血輸血業務経験が 1 年以上あること
- 3) 自己血輸血実施症例 (貯血・回収・希釈・返血の実施と看護, 計画立案, 赤十字血液センターとしての指導を含む) が通算で 30 例以上あること (症例記録の提出は不要)。
- 4) 日本自己血輸血学会教育セミナーあるいは自己血輸血看護師制度協議会指定セミナーを受講し, 受講証明書を 1 部以上保有していること (第 13 回試験以降, セミナー受講証明書の取得は認定試験後でも可としますが, 受稿証明書提出までは仮登録とし認定証は発行しません)
- 5) 必須参考書を保有していること (12 頁参照)

• 所属施設の必須条件

- 1) 日本自己血輸血学会 貯血式自己血輸血実施指針 (2014) を順守していること。
- 2) 施設に日本自己血輸血学会あるいは日本輸血・細胞治療学会のいずれかの会員である自己血輸血担当医師がいること (学会認定・自己血輸血責任医師も可)

5. 受験申請に際してのメールに関する重要事項

• 使用可能なメールアドレスの環境

- 1) 確実にドメイン<〇〇@jsat.jp>からのメールを受信できること
- 2) 添付ファイルを印刷できる環境があること

• 使用可能なメールアドレス

- 1) 個人の PC メールアドレス (職場の個人メールは可)
- 2) やむを得ない場合にのみ, 家族のメール使用は可

• 使用を推奨しないメールアドレス

- 1) 一斉送信の際, Yahoo メール, Gmail, Hotmail などの無料のアドレスおよび携帯メールは通信できない場合があるので推奨しませんが禁止ではありません。

● 使用禁止メールアドレス

- 1) 職場の共用メール、上司や友人のメールアドレスの使用は認めません（試験結果などの個人情報を送信する場合があります）。
- 2) Outlook メールは禁止とします。やむを得ず使用せざるを得ない場合には、必ず事務局 <jikoketsu-nintei@jsat.jp>へメールで相談ください（対象のメールアドレスを、「差出人セーフリスト」へ追加できる方は可とする場合があります）。

● 一斉送信への対応

- 1) 申請されたメールアドレスに事務局から「申請受領メール」や「受験票」および「種々の連絡通信」を一斉送信します。
メーラーの初期設定で一斉送信を拒否する設定になっている場合には必ず解除ください。

● 受信確認メールについて

- 1) 申請後は事務局からの連絡はメールで行うので毎日メール受信をチェックください。
- 2) 返信メールを事務局から求められる場合には、遅くても翌日までに、本人が返信メールを送信ください（関係者・代理人からの返信は認めません）。

● その他の注意

- 1) 仮登録完了後(申請受領メールの URL クリック後)はメールアドレスを変更することはできません。
- 2) 仮登録後に禁止メールアドレスを使用していることが判明した場合には、申請を取り消す場合があります。

6. 認定制度事務局・振込口座・受験費用の支払い

学会認定・自己血輸血医師看護師認定制度事務局

受験申請について質問がある場合には事務局へメールで連絡ください。

電話での問い合わせは固くご遠慮いただきます。

事務局移転中のため、申請書類送付先は web 申請合格者にメールでお知らせします。

E-mail あて先：学会認定・自己血輸血医師看護師 制度協議会会長 脇本信博

受験申請前：info@jsat.jp 受験申請後：jikoketsu-nintei@jsat.jp

認定登録後：info@jsat.jp

自己血輸血医師看護師制度協議会口座（日本自己血輸血学会口座と違うので注意のこと）

口座名：「医師看護師協議会 代表 脇本 信博」

(イカンゴシキョウギカイ リキト ノブヒロ)

銀行名：三菱 UFJ 銀行 店名：王子(オウジ)支店(店番 175)

口座種類：普通口座 口座番号：0106265

注意：振込み時は申請者の氏名のみ記載ください。

施設名で振込みの際は申請者の後ろに施設名を記載ください。

- **費用の支払いについて：**

医師看護師協議会口座（4頁）へ振込んでください。

振込費用は申請者が負担ください。

領収書は発行しません。振込用紙控え（ご利用明細書）を代用ください。

- ***総受験費用（受験申請前，資格審査合格後，認定試験合格後の3回に分けて振り込んでください。受験申請時あるいは資格審査後に一括で振り込まないこと!!!）**

臨床輸血看護師やアフェナースの認定取得者以外の方：総額4万円

取得者：総額3万円

- ***受験申請費用：1万円（web申請前に納入!!!）**

臨床輸血看護師やアフェレーシスナースの認定取得者は5,000円を納入してください。

その場合は認定証の写しを提出しなければなりません。

- ***合同研修（1万5千円）・筆記試験受験費用（1万円）：合計2万5千円**

（資格審査合格の通知受領後に納入）

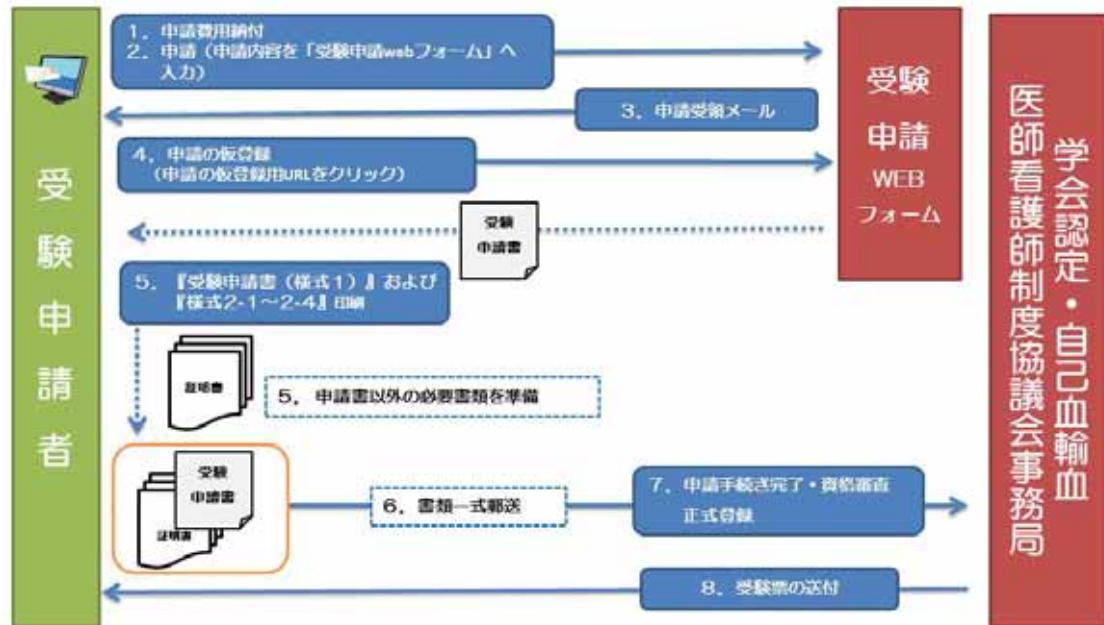
臨床輸血看護師やアフェレーシスナースの認定取得者は合同研修費用として1万円，
受験費用として1万円，合計2万円を納入ください。

- ***登録料：5千円（認定試験合格の通知後に納入）**

- いったん振込んだ費用は原則として返還しません。
ただし、外傷・疾病・妊娠・分娩、自然災害などの正当な理由があり、協議会が認める場合は返還します。
- 資格審査あるいは筆記試験の不合格者は、次回受験の際に、新たに受験申請（申請費用振込み含む）から行う必要があります。
- **10月26日(金)と10月27日(土)の昼食・お茶の費用（金額未定）**
日程がタイトなため、当方が用意した弁当を指定場所で摂っていただきます。
弁当代・お茶代は認定試験初日（合同研修）の受付の際、徴収します。
協議会も一部負担するため、領収書は発行しません。
- **宿泊費，交通費：**自己負担とします。

7. 認定試験の申請手順

- 「受験申請→資格審査→施設研修・合同研修・面接・筆記試験→登録」の順で行います。



(1~4 : web 申請, 5~8 : 書類の郵送)

1) 未入会者の学会入会と受験申請費用（1万円）の振込み：

日本自己血輸血学会あるいは日本輸血・細胞治療学会へ入会していない方は申請前に入会ください。受験申請費用は医師看護師協議会口座へ振込みください。書類一式送付の際に振込票の控えも提出ください。

2) 仮申請

申請時のメールアドレスについては本状 3-4 頁の「5. 受験申請に際してのメールに関する重要事項」を参照ください。

受験申請 Web サイト

<<http://jikoketsu-nintei.jsat.jp/Apply/Nintei.aspx>>

注意：受験申請期間中以外はアクセスすることができません。

Web フォームは「日本自己血輸血学会ホームページ」>「学会認定・自己血輸血医師看護師制度」>「学会認定・自己血輸血看護師試験について」にも掲載します。

- 「受験申請 Web サイト」にアクセスし Step1 の画面に表示されている『様式 1・入力見本』を参照の上、申請内容を入力し、『申請内容を送信する』ボタンをクリックします。送信後に「申請内容呼出・修正用パスワード」が画面上に表示されるので、事務局からの「申請受領メール」が届くまでパスワードは必ず保存ください。

3) 事務局からの申請受領メールの送付

- 仮申請時に入力したメールアドレスに事務局からすぐに（遅くとも1時間以内）「申請受領メール」が送られてきます。
- 申請後、即時（遅くとも1時間以内）に「申請受領メール」が届かない場合は、メールアドレスの誤入力あるいはPCメールからの受信拒否が考えられます。

「申請受領メール」が届かない場合は「申請内容呼出・修正用パスワード」を使ってメールアドレスを確認し、<修正・印刷ボタン>から仮申請の修正を行ってください。
新規申請ボタンは絶対に使用しないでください!!!

4) 申請仮登録

- 「申請受領メール」に「申請仮登録用の URL」が表示されているので、URL をクリックしてください。

5) 『受験申請書』印刷

- 「申請の仮登録用 URL」をクリックし申請仮登録完了の後、Step8 の画面表示に従い『入力済・受験申請書（様式1）と様式2-1～2-4』および『本人確認用送付物確認シート』をダウンロードし印刷します。
- 申請内容を修正および再印刷が必要な場合は、「受験申請 Web フォーム」に「申請内容呼出・修正用パスワード」でログインし登録修正または再印刷ください。
- 「申請受領メール」を受信後に「申請の仮登録用 URL」をクリックしないで放置すると申請内容が破棄されます。速やかに手続きしてください。
- 「申請内容呼出・修正用パスワード」：申請内容を修正する場合に必要です。大切に保管ください。

6) 書類一式の郵送（2018年9月19日（水）必着）

- 『入力済・受験申請書（様式1）』に顔写真（横3cm×縦4cm）を貼付け、『様式2-1～2-4』に必要事項を記入してください。
- 『受験申請書（様式1）』と『様式2-1～2-4』および『教育セミナーや協議会指定セミナーの受講証明書の写し』、『看護師免許証の写し』、『受験申請費用1万円の振込票の写し（臨床輸血看護師またはアフェレーシスナース認定取得者は5,000円の振込票と認定証の写し）』、『本人確認用送付物確認シート』を新事務局へ**レターパックライト（360円）**（以下は不可：**レターパックプラス 510円**，**書留**，**普通郵便**）で郵送ください（新事務局は8月中旬以降にメールでお知らせします）。

7) 資格審査と正式登録完了

- 受験申請に必要な書類一式が事務局へ到着し、事務局の資格審査後にはじめて申請手続き（正式登録）が完了となります。

8) 資格審査結果通知と受験票の送付（8月下旬以降に順次メール送信）

- メールで受験票の送付を行います。
9月26日(水)になっても受験票が届かない方は必ず<jikoketsu-nintei@jsat.jp>へメールで連絡ください。
- 受験票には顔写真を貼付け、試験会場に持参ください。
- **試験会場へは受験票のほかに運転免許証やパスポートあるいはマイナンバーカードなど顔写真の付いた公的な証明書を持参ください。顔写真のないものは認めません。**
- 運転免許証やパスポートあるいは公的なカードのない方は**現在勤務先の施設の顔写真の付いた身分証明書も可**とします。

8. 申請書類記載上の注意

1) 申請用紙（様式1）

- **様式1**：申請時の6ヶ月以内の顔写真（横3cm×縦4cm）を貼付
- **住所**：都道府県名から記入すること。
- **携帯電話**：保有している場合には必ず記入ください（緊急連絡時に必要）。
- **メールアドレス**：確実に受信でき、添付ファイルを印刷できる環境のメールアドレスを記載ください（3頁の「5. 受験申請に際してのメールに関する重要事項」参照）。
- **部署名**：外来(科名)・病棟(科名)・輸血部・管理部門(職種・職位)などを記載する。
記載例：1) 看護部・〇〇病棟，2) 看護部・〇〇外来，3) 看護部・輸血部，4) 輸血部（病院雇用でなく輸血部雇用の場合）
- **職歴**：看護師免許取得後の職歴（ローテーション，転勤，同一病院内の職場変更等を含む）を記入ください。
職歴が4か所の場合：すべての職歴を記載ください。
職歴が3か所以内の場合：
退職・休職・助産師学校や大学院などへの進学などがある場合にはそれも記載ください。
職歴が5か所以上の場合：
4か所を超えるものは省略ください。その場合でも，**最初と現在（最終）の職歴は必須**です。
- **准看護師および看護助手の職歴**：
記載しないでください。
ただし，准看護師を含まないと臨床経験が2年未満の場合には，准看護師の職歴を追加記載ください。
- **所属施設の年間自己血輸血実施症例数と申請者の通算の自己血輸血業務経験年数および通算の自己血輸血実施症例数**：
自己血採血計画の立案，自己血採血実施，採血時の看護，回収式や希釈式実施あるいは看護，自己血の返血実施，赤十字血液センターとして自己血採血の指導などを含まず（実施記録の提出は不要）。

- **申請者の学会会員歴**：日本自己血輸血学会あるいは日本輸血・細胞治療学会への入会の有無を記載ください。
入会年や会員番号は記載の必要はありません。

- 様式1, 2-1,2,3, 2-4を訂正する場合は二重取消線を使用し訂正印を押してください。

2) 様式 2-1,2,3：施設長（理事長または院長），所属長（看護部長），自己血輸血責任医師の推薦状

- 施設長（理事長または院長）・所属長（看護部長）・自己血輸血担当医師（あるいは学会認定・責任医師）の各々すべての推薦が必要です。

所属長として師長は不可です。

- 看護部長不在の場合はその職務代行者の推薦としてください。
- 看護部長が申請する場合は所属長として理事長または院長の推薦が必要です。
- 自己血輸血担当医師（あるいは学会認定・責任医師）の日本自己血輸血学会あるいは日本輸血・細胞治療学会への入会の有無を記載ください。入会年や会員番号は記載する必要はありません。

3) 様式 2-4 自己血輸血業務経験証明書

- 施設長（理事長または院長）または所属長（看護部長）あるいは自己血輸血担当医師（あるいは学会認定・責任医師）のいずれか1名による証明が必要です。
- 証明に際して、貯血などの記録を提出する必要はありません。
- 以前勤務していた施設で自己血輸血を行っていた場合には、業務経験証明書として、その施設の証明が必要です。

4) 日本自己血輸血学会教育セミナーあるいは自己血輸血看護師制度協議会指定セミナー受講証明書の写し：

- 少なくとも1部必要
- **日本自己血輸血学会理事長印や自己血輸血看護師制度協議会会長印のない受講証明書は認められません。**

合同輸血療法委員会や日本輸血・細胞治療学会支部例会の参加証明書は認めません。

- 受講証明書を保有していない場合にはA4紙に「受稿証明書は保有していません。○月○日の第○○回教育セミナーあるいはその後のセミナーを受講する予定です」と記載ください。

5) 看護師免許証のコピー

- 結婚・離婚などで改姓あるいは紛失などで裏面に記載がある場合は**裏面のコピー**も必要です。

6) 准看護師許証のコピー

- 原則として提出する必要はありません。
- 准看護師の経験を含まないと臨床経験が2年に達しない場合のみ提出ください。

7) 受験申請費用 1 万円振込票の写し

- 臨床輸血看護師またはアフエレーシスナース認定取得者は 5,000 円の 振込票を提出ください。その場合は認定証の写しを提出する必要があります。

8) 提出方法 (2018 年 9 月 19 日 (水) 必着)

- 提出物はすべて A4 の大きさに統一ください (A4 よりも大きいものは縮小コピーし、小さいものは拡大コピーする)。
- 様式 1 (原本), 様式 2-1,2,3,4 (原本)
教育セミナーあるいは自己血輸血看護師制度協議会指定セミナー受講証明書 (コピー)
看護師免許証 (コピー)
准看護師許証 (コピー) ←准看護師を含まないと臨床経験が 2 年未満の場合のみ
受験申請費用 1 万円振込票 (コピー)
を順に綴じて「正」とします。
- 「正」の全ページをコピーしたものを「副」とします。
- 「正」「副」とともに左上をホチキスで留めます。「正」「副」を混ぜて提出しないでください。
- 「正」1 部, 「副」1 部をそれぞれクリアファイルに入れ, レターパックライト (360 円) (レターパックプラス, 書留, 普通郵便は不可) で郵送ください。
- 『本人確認用送付物確認シート』は「正」のみ 1 部提出ください (ホチキスで綴じないでください)。

9. 資格審査

- **資格審査の結果と受験票・スケジュール・会場案内 (資格審査合格者のみ) は 2018 年 8 月下旬以降に順次メールで通知します。**
- 受験者数と会場の収容人数の関係から, 資格審査に合格した場合でも, 筆記試験の受験資格が与えられない場合もあります。登録順に受験票を発行しますので, 早く登録 (申請書送付) してください。
- 受験資格が与えられなかった方に対しては, 次回以降, 優先的に筆記試験を受験できるものとなります。その場合, 新たな申請手続きを行う必要はありません。
- 本人の都合で筆記試験を辞退する場合は, 受験資格を失うものとなります。原則として振り込んだ費用は返却しません。
ただし, 外傷・疾病・妊娠・分娩, 自然災害などの正当な理由があり, 協議会が認める場合はその限りではありません。

10. 合同研修

- 受講資格は資格審査合格者のみです。
- 資格審査試験受験者は合同研修に必ず参加ください。
参加しない者は筆記試験の受験を認めません。

11. 筆記試験

1) 試験実施要項

- 筆記試験：マークシート形式の一般問題と臨床問題で**カリキュラムの全範囲**から出題します。小論文記述問題も出題します。

2) 合否判定と発表

- 合否の判定は筆記試験（60点以上）、面接、施設研修の結果を総合して判定します。
- 結果はメールおよび文書で通知します。
- 合格者には認定証を発行します（セミナー未受講で仮登録の者は受講後に発行）。
- 認定試験合格者は、原則として、日本自己血輸血学会ホームページに施設名を掲載します。

12. 認定証の授与

原則として教育セミナーあるいは協議会指定セミナーで授与します。

13. カリキュラム

- **輸血療法の考え方と各科の輸血**：輸血の考え方、内科の輸血、外科の輸血、細胞治療
- **血液製剤の種類、管理、供給**：種類と使用目的、保管管理と払い出し
- **輸血の実際**：
輸血に必要な器材と使用上のポイント、輸血手順・手技・患者ケア、輸血副作用と対応・予防策、輸血実施における看護上のポイント、輸血とリスクマネジメント
- **自己血輸血**
目的と適応、利点と欠点、貯血式自己血輸血に必要な器材、方法（消毒、穿刺、貯血、輸液、等）、エリスロポエチンの使い方、自己血輸血副作用と対応（救急医薬品の使用を含む）、自己血貯血における看護師の役割、クリニカルパスの有用性、自己血採血と看護師制度の法的側面
- **アフエレーシス**：種類、実際の方法、副作用とトラブル、看護師の役割
- **血液事業**：献血の仕組み、成分採血と副作用、医薬情報
- **輸血に関する倫理と法制度**
インフォームドコンセント、宗教と輸血、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律、改正薬事法、被害救済制度

14. 指定参考書

認定試験受験者は以下の4冊の必須参考書を必ず認定試験前に入手し自宅学習しなければなりません。

1) 必須参考書

著者名	書籍名	発行者	価格
脇本 信博 編・著	実践・輸血マニュアル ー自己血輸血から輸血療法全般の理 解を求めてー	医薬ジャーナ ル社	3,780 円(特別価 格:2,350 円, 送料 含む)
日本自己血輸血学会 (監修:脇本信博)	貯血式自己血輸血の概要と実際(改 訂第3版)	日本自己血輸 血学会	850 円(送料含む)
日本赤十字社	「輸血療法の実施に関する指針」 平成26年11月一部改正	日本赤十字社	赤十字血液センター から無料で入手可能
日本赤十字社	「血液製剤の使用指針」 平成29年3月改定	日本赤十字社	赤十字血液センター から無料で入手可能
日本赤十字社	輸血用血液製剤 取り扱いマニユア ル 2017年4月改訂版	日本赤十字社	赤十字血液センター から無料で入手可能

● 注意1:

「実践・輸血マニュアル」と「貯血式自己血輸血の概要と実際」の購入方法

日本自己血輸血学会ホームページの「書籍購入サイト」から購入ください。

<http://www.jsat.jp/jsat_web/download/syosekikounyu_site.html>

ホームページから購入する場合、「実践・輸血マニュアル」(定価3,780円)は特別価格2,350円(送料含む)(銀行の振込料は各自負担)で購入できます。

「貯血式自己血輸血の概要と実際」は500円+350円(送料)(銀行の振込料は各自負担)で購入できます。

● 注意2:

「輸血療法の実施に関する指針」と「血液製剤の使用指針」および「輸血用血液製剤 取り扱いマニュアル」は赤十字血液センターから無料で入手可能です。

2) 参考とすべき文献

- 日本輸血・細胞治療学会誌:日本輸血・細胞治療学会ホームページの学会誌のサイトから閲覧可能
- 自己血輸血(日本自己血輸血学会会誌):日本自己血輸血学会ホームページの会員サイトから閲覧可能

輸血副作用

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
日本輸血細胞治療学会誌	第53巻 第3号	374-382	藤井 康彦, 他	ABO型不適合輸血の発生原因による解析
日本輸血細胞治療学会誌	第54巻 第3号	359-371	高橋 雅彦, 他	輸血用血液の細菌汚染と敗血症
日本輸血細胞治療学会誌	第54巻 第3号	406-410	藤井 康彦, 他	重篤な急性輸血副作用に関する多施設共同研究

貯血式

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
自己血輸血	第15巻 第1号	1-4	内田 立身	自己血輸血と鉄
自己血輸血	第15巻 第2号	129-137	比留間 潔	同種血および自己血輸血における保存前白血球除去の意義
自己血輸血	第17巻 第1号	1-4	佐竹正 博	自己血の細菌汚染防止について
自己血輸血	第17巻 第2号	117-120	藤田 浩, 他	自己血採血と検査採血時の血管迷走神経反応 VVR の比較検討
自己血輸血	第18巻 第1号	114-115	脇本 信博	貯血式自己血輸血ガイドライン作成に向けての検討課題ーわが国と欧米のガイドラインの比較検討からー
自己血輸血	第18巻 第2号	228-241	脇本 信博	自己血輸血に関する Q&Aー第1報ー
自己血輸血	第19巻 第2号	207-216	脇本 信博 面川 進	日本自己血輸血学会・貯血式自己血輸血実施基準 (2007) 作成に当って
自己血輸血	第20巻 第1号	10-34	佐川 公矯 面川 進 古川 良尚	自己血輸血の指針 改訂版 (案)

回収式・希釈式

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
自己血輸血	第18巻 第2号	217-221	富士 武史	整形外科における回収式自己血輸血の現状と今後
自己血輸血	第18巻 第2号	222-227	小堀 正雄	初心者が実施するための「希釈式自己血輸血のガイドライン作成に向けての試み」
自己血輸血	第19巻 第2号	167-172	小堀 正雄	希釈式自己血輸血に何が課せられているのか

自己血輸血	第 20 卷 第 2 号	215-222	面川 進	希釈式及び回収式自己血輸血の現状と問題点について
-------	-----------------	---------	------	--------------------------

その他

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
自己血輸血	第 19 卷 第 1 号	34-39	面川 進	献血状況－特にドナーフェレシスについて－
自己血輸血	第 19 卷 第 2 号	149-152	平沼 高明	看護師の採血に関する法律的な問題点
自己血輸血	第 21 卷 第 2 号	124-133	脇本 信博	自己血輸血看護師制度設立に向けて